

新しい市史編さんに 市民の皆さんのご意見をお寄せください

1月26日、八王子市市史編さん審議会から市長に対し、答申「八王子市史編さんの基本構想および編集方針の策定について」が提出され、この答申を受けて、市では、これからの市史編さん事業の基本となる「八王子市史編さんの基本的な考え方ー市史編さん基本構想(素案)」をまとめました。

基本構想の内容をよりよいものにするため、この素案に対する市民の方々からの意見募集(パブリックコメント)を実施します。多くのご意見をお待ちしています。(ご意見の提出方法などは、3ページをご覧ください。)

八王子市史編さんの基本的な考え方 ー市史編さん基本構想(素案)ー

1. 策定の趣旨

この基本構想は、新たな八王子市史(以下「市史」という。)編さんを行うにあたり、八王子市の市政運営の基本構想である「八王子ゆめおりプラン」に示されたまちづくりの基本理念「人とひと、人と自然が共生し、誰もが生き生き生きるまち」を踏まえ、市史編さんの方向性を示すとともに、市史編さん事業のよりどころとするために策定するものである。

2. 市史編さんの目的

市史編さんの目的は以下のとおりとする。

- (1) 八王子市制100周年記念事業として行い、広い視野から八王子の歴史的な位置を明らかにするとともに、市民の地域に対する理解を深め、市民自らが行うまちづくりに役立てる。
- (2) 八王子の自然や歴史、伝統文化を改めて見直すことにより、八王子市の発展と文化の向上に資する。
- (3) 八王子に関する有形、無形の歴史資料を整理、保存、管理し、後世に伝えるとともに、現在及び将来の活用を図る。

3. 市史編さんの基本方針

市史は、以下の基本方針に基づき編さんする。

- (1) 昭和38年から43年にかけて刊行された既刊の『八王子市史』をはじめ、これまでの市内外の諸研究を参考とするとともに、各学問分野における最新の成果を盛り込み、生活する市民の視点から、改めて編さんする。

- (2) 昭和60年から平成4年にかけて刊行された『八王子の戦災と空襲の記録』、『八王子市議会史』、『八王子千人同心史』については、その成果を活かして編さんする。
- (3) 広く市民に親しまれ、まちづくりや生涯学習、学校教育等で活用される市史を編さんする。
- (4) 各分野の専門家の執筆による、質の高い学問レベルに耐えうる内容を保ちながら、平易な文章で読みやすい市史を編さんする。
- (5) 写真や図版を多く取り入れるほか、DVD等のニューメディア活用も考慮して、市民が親しみやすい市史を編さんする。
- (6) 政治、経済、行政史に偏ることなく、地域に生きた人々の視点から編さんする。
- (7) 八王子の地域的、歴史的、文化的な特性に配慮しながら編さんする。
- (8) 資料は、国内外から広く収集し、有形のものだけでなく、伝承など無形のものにも配慮して収集する。
- (9) 編さんの過程で調査、収集した資料は、将来に向けて公文書館などの施設の整備を図り、適正に保存、管理し、広く市民に公開して活用につとめる。

4. 市民協働

市史編さんにあたっては、生活する市民の視点からの編さんを行うため、以下の方針により市民協働をすすめるものとする。

- (1) 市民や地域、大学と協働し、地域の歴史を掘り起こすことにつとめる。
- (2) 市民によるボランティアの活用を図る等、市民参加、参画の機会の拡大につとめる。
- (3) 地域の研究団体や個人、学校などと連携し、編さん事業の普及につとめるとともに、次世代に向けた人材育成を図る。

5. 市史の内容

- (1) 市史は、本編8冊、資料編6冊の全14冊とする。

<p>〈本 編〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 原始・古代 2. 中世 3. 近世（上） 4. 近世（下） 5. 近現代（上） 6. 近現代（下） 7. 自然 8. 民俗 	<p>〈資料編〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 9. 原始・古代 10. 中世 11. 近世1 12. 近世2 13. 近現代1 14. 近現代2
--	---

- (2) 本編の時代区分及び主な内容は「別表1」のとおりとする。
- (3) 本編及び資料編の有償・無償の別、発行部数等については、別に定めることとする。

6. 市史編さんの期間及び刊行計画

- (1) 市史編さんの期間は、八王子市制100周年を迎える、平成28年度までとする。
- (2) 本編及び資料編の刊行計画は「別表2」のとおりとする。
- (3) 刊行計画については、資料の収集状況や資料調査の進捗状況等を勘案し、およそ3年後を目途に見直しを行うこととする。

7. 頒布方法

市史の頒布にあたっては、市民が購入しやすい価格設定、方法となるようつとめるものとする。

8. 付帯事業

- (1) 市史編さんの付帯事業として、編さん事業の市民への普及を図るための『市史研究』『市史編さん室だより』、市史本編及び資料編を補完するための『資料目録』『調査報告書』等を刊行する。
- (2) 市史の市民への普及を図るため、写真や図版を中心に編集した市史普及版や歴史年表などの刊行について検討する。

9. 編さん組織

市史編さんに伴う組織は、以下のとおりとする。

- (1) 市史編さん審議会
市長の諮問に応じ、市史編さんの基本的な事項について調査審議し、答申する。
- (2) 市史編集委員会
市史編さん審議会を代表する者及び専門部会を代表する者で構成し、市史の内容や具体的な編集方針等、市史の編集に関する重要で専門的な事項について協議する。
- (3) 専門部会
分野別、時代別に設置し、本編及び資料編に関する資料調査並びに執筆等を行う。
- (4) 顧問
八王子に関して深い学識を有する者から選任し、市史編さんに対する指導、助言を行う。

10. 事務局

市史編さんの事務局は、総合政策部市史編さん室とする。

11. その他

市史編さん事業を進めるにあたっては、この「基本的な考え方」の趣旨を広く多様な市民に伝えるようつとめるものとする。

市史編さん基本構想（素案）に対するご意見の提出方法

提出方法：素案に対するご意見と住所・氏名を書いて、直接、郵送、ファックス、またはEメールで市史編さん室へお寄せください。様式は自由ですが、パブリックコメントである旨を明記してください。

提出先：〒193-0943

八王子市寺田町1455-3 八王子市市史編さん室

電話 042-666-1511

FAX 042-666-1512

Eメール b015200@city.hachioji.tokyo.jp

締切り：平成21年3月30日（必着）

※ いただいたご意見については、集約後、市の考え方とともにホームページなどで公表しますが、個別の回答は行いませんのでご了承ください。（住所、氏名は公表しません。）

※ 八王子市市史編さん審議会答申「八王子市史編さんの基本構想および編集方針の策定について」及び審議会会議録・会議資料は、八王子市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)でご覧いただけます。

別表1 本編の構成と主な内容

構成	時代や主な内容
1. 「原始・古代」	先土器時代から平安時代まで
2. 「中世」	鎌倉時代から戦国時代まで
3. 「近世（上）」	江戸時代
4. 「近世（下）」	
5. 「近現代（上）」	明治維新から現代まで
6. 「近現代（下）」	
7. 「自然」	環境、地質、動植物、気象など
8. 「民俗」	年中行事、人の一生、民俗信仰、生業、近隣組織、民俗芸能など

別表2 刊行計画

内容		20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	
本 編	1. 「原始・古代」	資料収集・調査・分析				→	○				
	2. 「中世」		//		→	→	○				
	3. 「近世(上)」		//		→	→	○				
	4. 「近世(下)」		//		→	→	→	○			
	5. 「近現代(上)」		//		→	→	→	○			
	6. 「近現代(下)」		//		→	→	→	→	○		
	7. 「自然」		//		→	→	○				
	8. 「民俗」		//		→	→	→	→	○		
資 料 編	9. 「原始・古代」		//	→	○						
	10. 「中世」		//		→	→	○				
	11. 「近世1」		//		→	○					
	12. 「近世2」		//			→	→	○			
	13. 「近現代1」		//		→	○					
	14. 「近現代2」		//			→	→	○			

市史編さんのあゆみ－平成20年10月1日から平成21年2月28日まで

- 平成20年10月 1日 市史編さん専門員（嘱託員）4名を配置。
10月14日 寺田町町会長来室。
10月27日 第3回市史編さん審議会を開催。
11月26日 市史編さん審議会、管外視察（寒川文書館）。
12月 8日 第4回市史編さん審議会を開催。
平成21年 1月23日 沼謙吉氏（津久井町史編集委員）来室。
1月26日 市史編さん審議会、答申を市長に提出。
2月 4日 市史編さん基本構想（素案）を策定。
2月 9日 佐々木蔵之助氏（旧市史編集室職員）来室。
2月18日 市職員研修（講師 元藤沢市文書館長 高野修氏）を実施。
2月19日 市民講座「史料からみた八王子の歴史入門」（全6回）を開催。

受贈図書・資料（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）

多くの方々から、図書や資料をご寄贈いただきました。御芳名を記し、謝意を表します。

〔個人など〕 青木昭一 阿部昭三 甘利 進 飯島一郎 飯田英一 一ノ瀬登 乾賢太郎
井上公雄 植木岳雪 木内基容子 小泉勝夫 澤井 栄 清水喜久子
清水太郎 清水正之 関谷常夫 田川真理 田原勘意 丹野美子
中村吉且 西海賢二 橋本鋼二 林 宏一 樋口豊治 菱山栄三郎
松本恭俊 森原勝美 茂木 徹 矢崎 滋（敬称略・50音順）

〔公的機関〕 石川町教育委員会町史編纂室 大阪市史編纂所 奥多摩水と緑のふれあい館
金沢市総務局総務課市史販売担当 川崎市公文書館
相模原市市史編さん室 札幌市文化資料室 寒川文書館
上越市総務課公文書館準備室 相馬市教育委員会生涯学習課市史編さん室
高崎市総務部庶務課市史資料担当（財）たましん地域文化財団
東京市町村自治調査会 東京都立中央図書館
所沢市教育委員会文化財保護課 沼田市教育委員会社会教育課文化財保護係
沼津市教育委員会文化振興課市史編さん係
函館市中央図書館歴史・奉仕係歴史担当 八戸市立図書館市史編纂室
東村山ふるさと歴史館歴史資料係 藤沢市文書館 福生市郷土資料室
法政大学大学院エコ地域デザイン研究所 町田市立自由民権資料館
松本市文書館 南相馬市教育委員会博物館市史編さん係
武蔵村山市教育委員会教育部生涯学習スポーツ課歴史民俗資料館グループ
横手市史編さん室

歴史の窓②

忘れられたプロレタリア小説～仲木屋鑛一とその作品～ 市史編さん専門員 中村 元

昨年、小林多喜二のプロレタリア小説『蟹工船』がにわかに脚光を浴び、ベストセラーになったことは記憶に新しい。『蟹工船』は昭和4年(1929)に発表された小説であるが、その3年後の昭和7年(1932)、八王子でも土木建設労働の現場を題材とした小説が発表されていた。現在確認されている限りでは、国立国会図書館でしか閲覧することができず、「忘れられたプロレタリア小説」ともいべきこの作品について、著者の経歴などをまじえながら、以下簡単な紹介を行ってみたい。

著者である仲木屋鑛一〔なかきや こういち、本名：中木屋鑛一 明治42年(1909)～昭和61年(1986)〕は、山梨県の鉾山で生まれ、小学校卒業後数え年で14歳の時から長野県の水力発電所工事など各地の現場で土木建設労働に従事した。その後八王子近郊へと移った仲木屋は、昭和2年(1927)に開通する高尾山のケーブルカー工事などに携わる一方、プロレタリア文学雑誌『文芸戦線』に作品を発表していた葉山嘉樹に傾倒し自らも文学を志したという¹⁾。そして昭和5年(1930)10月、折からの恐慌の影響による失業者の増大をうけ、八王子市が失業救済事業として道路整備工事などを実施すると、仲木屋も失業救済事業登録者として労働に従事した。その日々の中で仲木屋は昭和7年、最初の小説集『失業登録者の手記』を上梓する。そこに収められた短編小説の一つ「労働市場」では、失業救済の土木建設労働に就労するために市の内外から人々が集まってくる様子が、次のようにリアルな筆致で描かれている。

「市外浅川町、元八王子村、塚村(現町田市―筆者注)から来る四五台の自転車の者以外は、その二里、乃至二里半の道程を徒歩で、六時前の真暗のうちに紹介所に詰かけなければ、ならなかつた。

市役所裏(市役所は昭和5年6月、八幡町から天神町に移転していた―筆者注)の線路を踏越へて、萬町、上野町、子安町と。明神町、追分町、千人町との早い夜明の、露路奥の裏長屋から一人二人バラバラに、やつてくる失業登録者の群も市役所正門近くになると、一つの流れみたいになつてしまふのだつた。破れ外套に、首をちぢめた者、印半纏着で、大手を振って寒いので駆出してくる者、頬被の者、襟巻で顔一面を押包んでしまつた者等々生活苦を象徴する限りの雑多な服装が、多彩を極めてゐた。」²⁾

仲木屋はその後昭和11年(1936)、前半が土木事業に関する論文集、後半が小説集と



いう構成をとる二冊目の著書『土木勤労読本 附土木小説集』を刊行する。後年『八王子物語』などを著わし郷土史家として知られる佐藤孝太郎は、本書に友人として序文を寄せ、「彼の文学的感情を卒直に表現した巧みな創作手法は、プロレタリア小説として、地に埋めた球玉の好編であらう」³⁾と高く評価している。

この八王子の「忘れられたプロレタリア小説」は、冒頭で述べたとおり現在では閲覧が難しいのが残念であるが、今後出来るだけ多くの方の目に触れる機会があることを願ってやまない。なお仲木屋鑛一は現在、市内西浅川町にある金南寺の墓所に眠っている。(なかむら もと)

1) 朝日新聞東京本社社会部『多摩の百年 下 絹の道』(朝日新聞社 1976年)193～194頁。

2) 仲木屋鑛一『失業登録者の手記』(私家版 1932年)8～9頁。

3) 仲木屋鑛一『土木勤労読本 附土木小説集』(日本土木研究所 1936年)14頁。